

F-46

和光市越後山地区における「コミュニティデザイン」の取り組みに関する研究

A Study on Actual Situation of the “Community Design” in Wako-shi Echigoyama Area.

○田中雄一朗², 川島和彦¹*Yuichiro Tanak², Kazuhiko Kawashima¹

In late years, it is said that that human relations have diluted in a residential area, and such a situation is called unrelated society and acts in a factor of the lonely death. The dilutions of human relations are not a problem that can be solved only by renewal of planning and design placement. Therefore as one of the solutions, community design of Wako-shi Echigoyama area attracts attention. In this study, we aim to clarify the actual situation of the action about community design in there.

1. 研究の背景と目的

近年, 住宅地における人のつながり⁽¹⁾が希薄化しているといわれている。その理由は, 現在の住まいを仮の住まいとして捉える人々の増加によって, 住宅地内において近隣住民とコミュニケーションをとる必要性が低くなったからであると言われている⁽¹⁾。そのような地域は無縁社会と呼ばれ, 孤独死の要因にも作用しており, 住宅地内における人のつながりの希薄化は物理的な配置計画やデザインの刷新だけで解決できる問題ではなくなりつつある⁽²⁾。

このようななか, 埼玉県和光市越後山地区の住宅地づくりにおいて, まちづくり会社と不動産会社による「コミュニティデザイン」⁽²⁾によって, 地区外から新たに入居した新規住民と既存住民のつながりの関係を創出した事例が存在する。代表的な取り組みである, 越後山納涼まつりにおいては2009年の1回目に約300名の来客を動員し, 2012年の4回目には約1000名の来客を動員するまでに規模が拡大しており, このような住宅地づくりにおける先進的事例といえる。

つまり, 越後山地区の住宅地づくりにおける新規住民と既存住民のコミュニティデザインに関する取り組みの実態を明らかにすることが, 今後の住宅地づくりを検討する際の一助になると考えられる。

本研究では, 和光市越後山地区を対象に, 関係主体へのヒアリング調査⁽³⁾および文献調査⁽⁴⁾から越後山地区の住宅地づくりにおける新規住民と既存住民を対象としたコミュニティデザインに関する取り組みの実態を明らかにすることを目的とする。

2. 越後山地区の住宅地づくりの経緯

越後山地区は緑自治会および越後山自治会の2つの自治会が存在する地区である。本地区における住宅地づくりは, 2001年に不動産会社内において, 越後山地区を故郷として自慢できるまちづくりを目指す, 「故郷まちづくり」という構想が生れたことを契機としている。その後, 2004年に

和光市職員やまちづくりにおける有識者, 越後山地区の地権者などから構成される準備委員会にて, 構想にもとづく4つのコンセプト⁽⁵⁾が制作され, その実現に向けた27件の取り組み (Table1) が考案された。そして, 不動産会社内の区画整理事業部が土地区画整理事業として組合設立などの準備を行ってきた。2005年には越後山土地区画整理組合設立認可を受けたが, 業務代行および事務代行は同一会社が携わることができないため, 不動産会社が業務代行を行い, 不動産会社内の区画整理事業部をまちづくり会社として独立させ, まちづくり会社が事務代行を行うこととなった。

現在は, 2011年6月から, 越後山地区の住宅地づくりを議論する場として組合の要請を受けて, 組合内に発足した越後山・緑まちづくり連絡協議会 (以下, EM会とする) を含めた4団体によって住宅地づくりが行われており, 実際には組合およびEM会を中心に, 不動産会社がハード整備を担当し, ソフト整備をまちづくり会社が補助している (Figure1)。このように, 住宅地づくりの手法である土地区画整理事業の形態は一般的にも用いられる手法と同様であるが, 従来の住宅地づくりとは異なり, 構想段階からソフト整備を盛り込んだ住宅地づくりを行っていたことが, 現在の新規住民と既存住民のつながりが存在する越後山地区の創出に寄与していると考えられる。

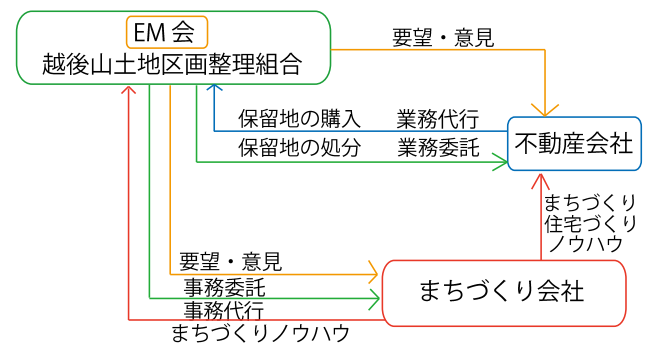


Figure 1. The Relation of each Organization.

1: 日大理工・教員・建築 Associate Professor, Department of Architecture College of Science and Technology Nihon University

2: 日大理工・学部・建築 Undergraduate student, Department of Architecture College of Science and Technology Nihon University

3. 越後山地区における取り組みの実態

調査の結果、27 件の取り組みはハード⁶⁾およびソフト面の取り組みに分類することができた (Table1)。

3-1. 越後山地区における取り組みの現状

ハード面の取り組みの実施状況 (Table1) を見ると、区画整理事業の進捗の影響を受けて、11 件のうち 10 件が未完成である。しかし、これら未完成のハードを対象に新規住民および既存住民が参加可能なワークショップを組合が主催する取り組みがある。具体的には、近年「公園」整備に関するワークショップ⁷⁾が開催され、住民が必要とする機能および使用方法、コンセプトなどの意見を交換したという。

つまり、組合が今後整備されるハード面の取り組みについて取り挙げて、住民の住宅地づくりにおける意欲の向上および、新規住民と既存住民のコミュニティデザインを試みている。

一方、ソフト面の取り組み実施状況 (Table1) を見ると、16 件のうち 10 件 (Table1-◎) が実施中である。このうち、新規住民のみに向けた取り組みは「BBQ」と「オープンハウス」の 2 件のみであるが、残りの地区全住民を対象とした 8 件 (Table1-◆) の取り組みへの参加を推奨し、地区全住民を対象にした取り組みへの参加も促している。具体的には、まちづくり会社がイベント告知の広報紙⁸⁾を作成し、職員が新規住民に対して、自ら配達に赴き、取り組み内容の詳細と自らも参加する旨を告げることで、地区全住民を対象とする取り組みに参加することへの不安を取り除く試みがなされているという。

このように、まちづくり会社が新規住民と既存住民のコミュニティデザインの試みを補助する取り組みが存在することが特徴であることがわかった。

3-2. 越後山地区の取り組み主体の変遷と課題

地区全住民を対象としたソフト面の取り組み (Table1) について、土地区画整理事業が開始される以前から存在する「芋煮・餅つき」および「ゴミゼロ運動」を除いた 6 件 (Table1-◆網掛け) の取り組みのうち、開始時においては、まちづくり会社が 4 件 (Table1-●網掛け) に携わっていたが、現在においては、まちづくり会社が 1 件 (Table1-○網掛け) のみにしか携わっておらず、取り組みの運営主体がまちづくり会社から EM 会および自治会へ移転していることがわかる。つまり、2 回目以降、まちづくり会社は取り組みの企画・準備・開催・撤去等の後方支援に回り、EM 会や自治会主導の取り組みとして開催させることで、取り組みを永続的なものにするための試みがなされている。しかし、実施中の地区全住民を対象とした 8 件 (Table1-◆) の取り組みのうち 5 件 (Table1-有) は、まだまちづくり会社の全面協力を得て開催されており、持続可能な取り組みまでには至っていないことがわかった。これは、住民側から運営の難易度が高く認識されているためだと考えられ、規模縮小な

Table 1. The actual situation of the measure in the Echigoyama area.

地区 全住民が 対象	新規 住民のみ 対象	開始 年	取り組み 名称	取り組みの内容・目的および特記事項	開始時の主体			現在の主体			まち づくり 会社 による 協力の 有無		
					まち づくり 会社	EM 会	越後 山自治 会	土 地 区 画 整 理 組 合	越後 山自治 会	EM 会		まち づくり 会社	
ハード面の取り組み													
×	×	-	石垣整備	農地の肥料飛散防止、美しいまちなみ創出	-	-	-	-	-	-	-	-	
×	×	-	遊べる道路整備	子供たちの遊び場造成	-	-	-	-	-	-	-	-	
×	×	-	ハンブ・フォルト	車両の速度の減速を促す	-	-	-	-	-	-	-	-	
×	×	-	街路樹	緑あるまちの創出、景観整備	-	-	-	-	-	-	-	-	
×	×	-	ボケツバパーク	住民間交流の場、住民が自由に植栽できる	-	-	-	-	-	-	-	-	
△	×	2008	11字路	通過交通防止・2008年に一部完成	-	-	-	●	-	-	-	○	
×	×	-	壁面装飾	道路新設にあたって既存住居の壁面が露わになってしまった部分に装飾を施す	-	-	-	-	-	-	-	-	
×	×	-	農地スプリンクラー	農家・体験農園利用者の負担軽減	-	-	-	-	-	-	-	-	
×	×	-	農地内休憩所	住民間交流の場	-	-	-	-	-	-	-	-	
×	×	-	クラブハウス集会所	地域のための相談所	-	-	-	-	-	-	-	-	
×	×	-	公園	また、ソフト面の取り組み等に併用予定 住民が自分の庭の草刈りとして使用可能、完成後 には、越後山納涼まつりの会場として使用予定	-	-	-	-	-	-	-	-	
ソフト面の取り組み													
◎	◆	2002	秋の収穫祭	毎年10月に開催。柿餅や柿料理を通じたスローフードの良さを伝える。今後住民から、柿餅づくりを率先して伝授するリーダーの出現を期待 毎月1回開催。柿干しや柿料理を通して秋の収穫祭と同様の目的をもち、高齢者と子供との触れ合いの場としても機能	●	-	-	-	-	○	-	-	有
◎	◆	2005	梅祭り	毎年4月に開催。柿干しや柿料理を通して秋の収穫祭と同様の目的をもち、高齢者と子供との触れ合いの場としても機能	●	-	-	-	○	-	-	-	有
△	◆	2012	野菜の宅配	地産地消の推進、地元意識向上、試験運用中	●	-	-	-	○	-	-	-	-
×	×	-	指導員体験農園	農家と住民との触れ合いの場、地産地消を促す	-	-	-	-	-	-	-	-	-
×	×	-	朝採り野菜のレストラン	採れたての野菜を通じた地産地消促進	-	-	-	-	-	-	-	-	-
×	×	-	地元野菜ブランドの確立	地産地消の推進、地元意識向上	-	-	-	-	-	-	-	-	-
×	×	-	朝市	公園完成後に実施予定、野菜などが並ぶ予定	-	-	-	-	-	-	-	-	-
◎	◆	2007	越後山納涼まつり	毎年8月または9月に開催。越後山地区最大のイベント。大きな行事を成し遂げることで、住民が一致団結する契機となることを目的として開催	●	-	-	-	-	○	-	-	後援
◎	◆	2011	防災訓練	東日本大震災を契機に開催。まちづくり会社の協賛・協賛要員 各自治会が古くから行うが、EM会の要請を受けて、子供連れの小学校に合わせ行うこととなり、パトロールも兼ねる取り組みとなった	●	●	●	●	○	○	○	-	有
◎	◆	不詳	ゴミゼロ運動	生涯現役の取り組みの一つ、地域の安全確保。EM会からの要請により実施	●	●	●	●	-	○	○	○	無
◎	◆	2005	シルバートロール隊	実際の防災訓練に統合。まちづくり会社兼、子供連れの職業体験と住民間交流の場が目的	●	●	●	●	-	○	○	○	無
×	×	-	越後山ステッカー	車両に越後山ステッカーを住民が貼ることで、不審な車両の発見に寄与。地元意識の向上	-	-	-	-	-	-	-	-	-
◎	◇	2010	BBQ	新規住民のみを対象とした、新規住民間の触れ合いを促すためのもの 購入予定者(新規住民)への越後山地区の説明の場、また、地権者だった方に、土地がどのように使用されたかを報告する場として機能	●	-	-	-	○	-	-	-	有
◎	◇	2009	オープンハウス	越後山自治会が古くから行うイベント EM会が合同開催を呼びかけ、規模が拡大。住民間交流の場として機能する	-	-	●	-	-	○	○	○	無

[凡例]◎:実施中、×:未実施、△:試験運用、一部実施、◆:該当、◇:該当、○:該当、-:該当なし、不詳、時期不明

どを通して住民主導でも運営しやすいものとするのが課題といえる。

4. まとめ

今回の調査で、越後山地区におけるコミュニティデザインにかかわる主体が、①初期段階からソフト面の取り組みを盛り込み、ソフト・ハードの双方から、住民間交流の機会につながる取り組みを創出していること、②取り組みを持続可能なものとするために、可能な限り住民主導の運営に移行させていることが明らかになった。

- [注釈および参考文献]
- (1)人のつながりとは、住民間の信頼関係および相互互助が働く関係とする。
 - (2)文献2)において、山崎はコミュニティデザインを「人と人がつながる仕組みをつくること。」としており、本稿も同様の定義とする。
 - (3)調査方法:直接対面方式、調査日:2012年9月4日、9月18日、調査対象:株式会社平成都市計画研究所・社員様、越後山土地区画整理組合・事務局長様(9月4日のみ)、調査内容:越後山地区における事業内容および組織間連携の実態について。
 - (4)越後山土地区画整理組合が事業の進捗状況を説明するために発行する「越後山だより」、および、同組合が実施した取り組みの報告・今後の取り組みなどを説明するために発行する「えちごやままちづくりニュース」の2つ。
 - (5)「故郷と想える、真善美あるまちづくり」、「生涯健康、生涯現役のまちづくり」、「農業のまちづくり」、「住みよい生活と快適のまちづくり」。
 - (6)ハード面の取り組みとして、洪水対策の「調整地の整備(実施済み)」が存在するが、生活に直接作用しないことから除外した。
 - (7)2010年7月20日、8月30日、9月18日、の計3回実施
 - (8)既存住民に対しては組合を経由して回覧板にて配布を行っている。
- [1]広井良典:「コミュニティを問ひなおす」、pp19-20, 2011
[2]山崎亮:「コミュニティデザイン人がつながるしくみをつくる」、pp20, 2012